

岩崎城だより

No.67
2025/1/5



「紫春」いそはた みか



館長のおはなし

令和7年になりました。ここ何年かは毎年お正月に岩崎城に登城し、初日の出を見るのが習慣になっています。岩崎城址からですと、日進市の三ヶ峰辺りから太陽が昇るのを見ることができません。さて、この「初日の出」を拝むという風習はいつからあるのでしょうか？

太陽は信仰の対象となりますし、天照大神は太陽神です。太陽をありがたいと思う心は古くから持っていたと思われますが、「初日の出」を拝む風習は江戸時代後期頃にはあつたようです。歌川広重は浮世絵として「洲崎はつ日の出」という作品を残しています。盛んになるのは明治時代になってからで、明治27年発行の『明治節用大全』には高輪洲崎の浜辺、芝愛宕の山上、神田の社地、上野の山王台、あるいは浅草の凌雲閣に登り、日の出を待つもの少なからずとあり、初日の出の人気スポットが東京の各地にあつたことがわかります。

寒い時期ですが、太陽の光を浴びて、この1年を平穏無事に過ごしたいものです。



国立国会図書館デジタルコレクションより



イベント情報



企画展 「にっしんと観光 ～名所へご案内します～」 1月13日(月・祝)まで	むかしの観光はどのようなものであったのか、名所図会や案内図、旅行の持ち物などの収蔵品とともに展示します。	
「ひなまつり スタンプ・シールラリー」 2月1日(土)～3月9日(日)	愛知県内各所のおひなさまめぐり、スタンプ・シールを集めて景品をゲット！スタンプの台紙は各参加館にて配布します。ひな人形の見学と合わせてお楽しみください！	
「西郭・空堀清掃」 日時:2月1日(土) 13:00～16:30(雨天中止) 参加費:1000円 募集期間:1月11日(土)9時 予約サイトから	毎年恒例！第4回空堀清掃！普段立ち入ることができない西郭・空堀エリアの遺構がきれいに見えるよう、溜まった落ち葉の除去や草木の剪定などを行います！	
「城跡歩きは こんなにおもしろい！ 日進・名東の城跡を探访する」 日時:3月22日(土) 14:00～16:00 場所:名東文化小劇場 定員:無料・どなたでも	講師:小城小次郎×内貴健太 申込方法:<u>1月10日(金)</u>から 名東文化小劇場窓口、岩崎城 歴史記念館窓口、teket、にて 整理券配布。	<u>日本城郭検定 1級保持者</u>の小城小次郎さんをお迎えしてトークショーを開催！お城の基本から日進市、名古屋市名東区の城跡まで、お城を語ります！

「岩崎城だより」

発行日 2025年1月5日(年4回発行)

編集・発行 岩崎城歴史記念館

〒470-0131

日進市岩崎町市場 67 番地

Tel 0561-73-8825

Fax 0561-74-0046

<http://www.mf.ccnw.ne.jp/iwasakijo>

◆開館時間

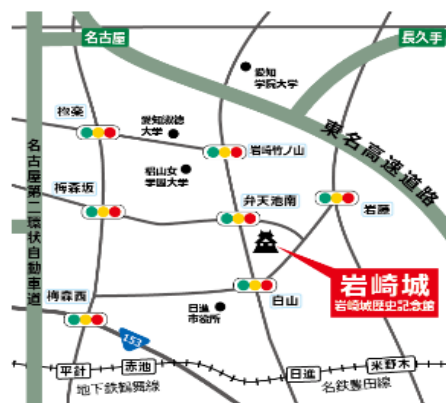
9:00～17:00

◆休館日

月曜日

(祝日の場合は開館)

12月28日～1月4日



特別展

「につしんのおひなさま」

岩崎城歴史記念館で毎年恒例の特別展を開催します。桃の節句にあわせて、子どもの無事な成長や幸せへの願いが託された、人形の数々を展示します。豪華絢爛なお雛様を、ぜひご覧ください。

■ 展示期間 1月25日(土) ～ 3月16日(日)

■ 観覧無料

旧市川家住宅でも
おひなさまを展示。
合わせてお楽しみ
ください♪



岩崎城のゆるキャラ



岩崎城の「いわさき」とその城主である「丹羽(にわ)」をかけて「にわさきくん」と命名されました！

雨が降る中、あじさいの下でふるえていたところをかんすけくんに助けられました。「あの時受けた恩を返すぞ！」と、にわさきくんは甲冑を身に着け、槍の稽古と城内でのおもてなしに日々励んでいます！岩崎城ににわさきくんが出陣する時はぜひ、会いに来てください！



・1月26日(日)・2月9日(日)・3月9日(日)

11:00～11:15/14:00～14:15 岩崎城にておもてなし♪



岩崎の民話

むか山の源助

おんたけ山から ちよと見れば

むか山源助さが ま正面に

上り下りの 段々を

杖をたよりに えっとこさ

こんなうたをうたいながら、村人は御嶽山に登ることがあった。むか山の中腹にわらぶきの小さな家があった。家というよりこのあたりでいう、「うだつ小屋」というようなくずれかかった家である。

源助きは、どこから来て住みついたかははっきりしないが、ここで桶のたがかけや、竹細工などの仕事をして暮らしていた。源助きは足が悪く、いっこくでもあった。さいなことでも腹を立てて人に反抗するという性格であった。村人はそれをおもしろがって、こんなうたをだれともなく、口ずさむようになったのだろう。

源助さんには二人の息子があつた。おんたけ山の裾におきよばあさんというばあさんが住んでいた。ばあさんには二人の娘があつた。

源助ぢいさんは、杖をつきつきこのばあさんをたずねて来るのである。この二人のぢいさんをばあさんの晩年のことはよくわからないが、二人の息子と二人の娘は仲よしになって、楽しく暮らすようになったという。



収蔵品紹介

◆花蝶百人一首◆

天明4年に江戸の蔦屋重三郎により出版されたものを、天保6年に名古屋の2代目永楽屋東四郎が再出版したものです。絵は浮世絵師の溪斎英泉によって描かれました。この書籍は寺子屋で教科書として使ったといわれています。

永楽屋東四郎（東壁屋）は名古屋の版元です。明倫堂で学問を教える藩士の著作を多く出版しました。繁盛した永楽屋東四郎は蔦屋重三郎を頼りに江戸へも進出し、様々な種類を出版するようになりしました。また、永楽屋は『北斎漫画』の出版を行い、北斎の西本願寺別院にて大達磨を描くイベントをプロデュースしたことも有名です。

写真は、小倉百人一首の41番から48番の歌が人物の絵とかかれています。赤矢印で示した、

契りきな かたみに袖をしほり

つつ 末の松山 波こそざじとは

この歌は、藤原公任が選んだ三十六歌仙の一人で、清少納言の父である、清原元輔の歌です。

